

活動名：学生シェアハウスを核としたまちなか再編事業「filプロジェクト」（株式会社富山市民プラザ）

【共創者】富山大学 都市デザイン学部 都市・交通デザイン学科 教授 久保田 善明

活動の概要

（活動拠点）富山県富山市荒町5-5

まちなかの空きビルをリノベーションした学生シェアハウスを核にグラウンドレベルには地域に開かれた食堂、ランドリー、庭も整備。「まちなかの活動に参加すること」を入居条件とし意欲的な学生を集めるとともに、地元企業約40社からなるサポートクラブを組織し、多様な主体が連携する「街ぐるみ」のプロジェクトを実現した。学生のチャレンジを街の活性化に繋げた。



雑誌ソトコト2024 2月号掲載



入居者企画のまちなか学園祭



地域の商店主との交流会

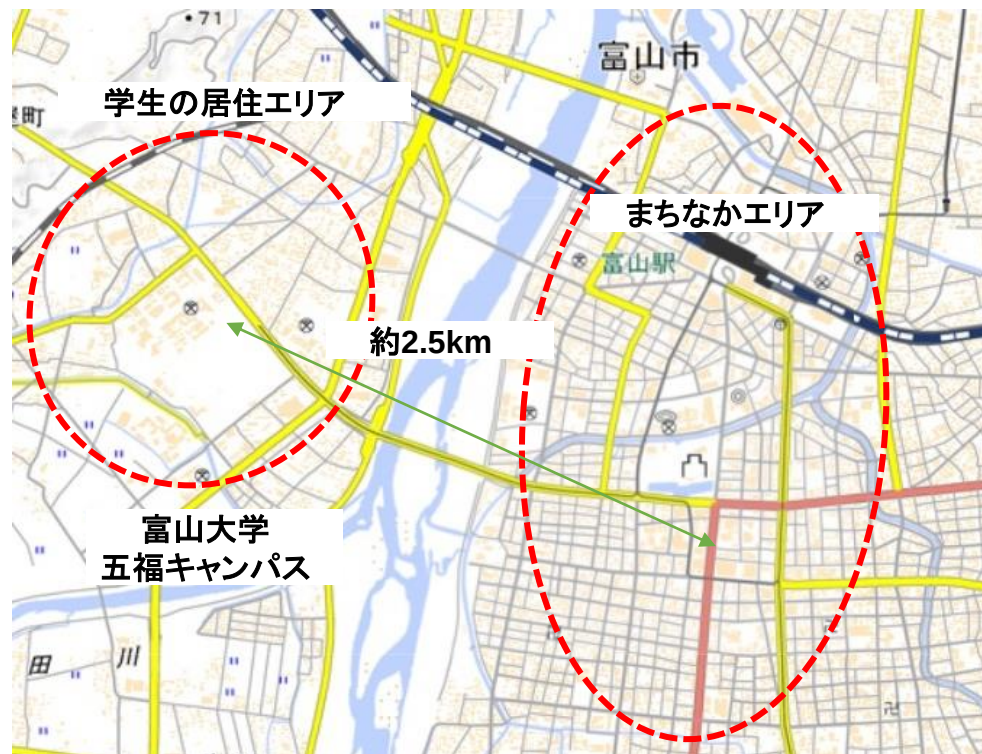


地場企業のTOPと語る会

活動内容	新たに創造する地域価値・解決を目指す社会課題等	・まちなかの空きビルの解消及び学生と地域の新たな交流を生み出す拠点創出。 ・官民学、地域との協力体制のもと、学生がまちなかで暮らし、活躍できる機会や環境を提供し、学生の活動をまちなかのまちの賑わいにつなげた。 ・学生が卒業後も富山と持続的に関わり続ける関係性を創出。
	先進性・新規性	・大学や地元企業と連携した「まちぐるみ」のプロジェクトを実現。 ・県内企業約40社によるサポートクラブを設立し地域が一体となって、学生の居住、活動、挑戦を後押しする体制を作った。 ・まちなかの活動に参画することと学生であることを入居条件とし、新陳代謝を図りながら持続的な活動と卒業後の定住や関係人口の増加を促している。
	地域づくり・コミュニティづくりへの寄与	・学生の居住やイベントなどの企画開催によるまちなかの賑わいづくり。 ・地場企業との定期的なコミュニケーションの場の提供。 ・人手不足になりがちな地域行事への参加、振興会等の取り組みへの参画。
活動の成果		・入居学生数：2022年12月：5名(賃貸開始)／2023年4月：17名／2024年4月：31名 ※全32室 ・学生活動・交流機会：2022年度10件(活動期間4ヵ月)／2023年度23件(活動期間12ヵ月)／2024年度24件(9ヵ月) ・県外学生の県内就職（1件）
特にアピールしたいポイント		・「まちぐるみ」の事業スキームと学生の活動を支援するサポートクラブに支えられた学生の活動、地域交流。 ・卒業生、入居学生のコメント。
他の受賞歴等		土地活用モデル大賞 都市みらい推進機構理事長賞 受賞(2023年) 2024年度グッドデザイン賞 受賞(2024年)

活動の背景・プロジェクトの概要

共刊



富山市の中心市街地と現状の課題

- 空き地・空きビル・空き店舗・空き家の増加
- 若者がまちにいない
- まちの活力の低下



富山大学周辺の現状と課題

- 学生の75%が県外出身者。五福キャンパス周辺に約5,000人が居住
- キャンパス周辺は学生アパート街。単調な暮らし、社会的学びが少ない。
- 富山のまちとの関係が希薄なまま富山を去っていく

まちなかの空きビルを…

「人」が集う新たな交流・活動拠点へ



- ・まちなかの空きビルをリノベーションして、学生向けのシェアハウスと地域に開かれた食堂、ランドリー等を一体的に整備。(既存ストックの有効活用、スポンジ化の解消)
- ・まちなかの活動への参加を入居条件とする。(賑わい作り、関わり代、成長、富山への愛着醸成)
- ・地域や地元企業のサポートクラブを組織するなど、「街ぐるみ」のプロジェクトをデザインし推進

プロジェクトの特徴

fil

地域の新たな交流を生み出す拠点「fil」～2022年12月から順次オープン～

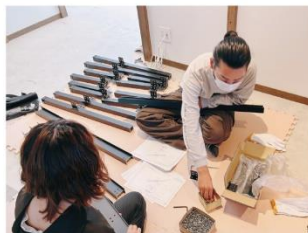
意欲的な学生が入居

- ・まちなかの活動に参加することが入居条件



▼2-5F（学生シェアハウス）

- ・新たな住民を迎え入れる学生シェアハウスを整備
- ・地場の企業と連携した手作りの居室空間を提供
- ・「富山まちなか暮らし」の体験・体感機会の提供



地域活動

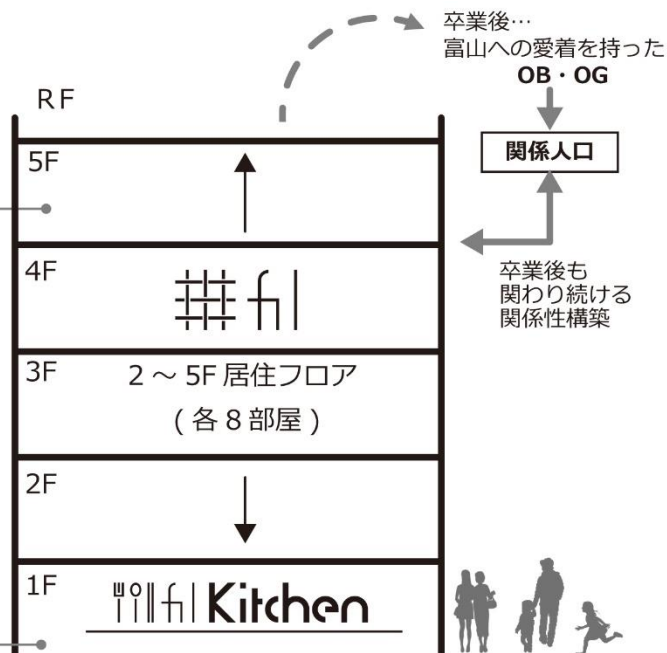


fil Laundry

お庭

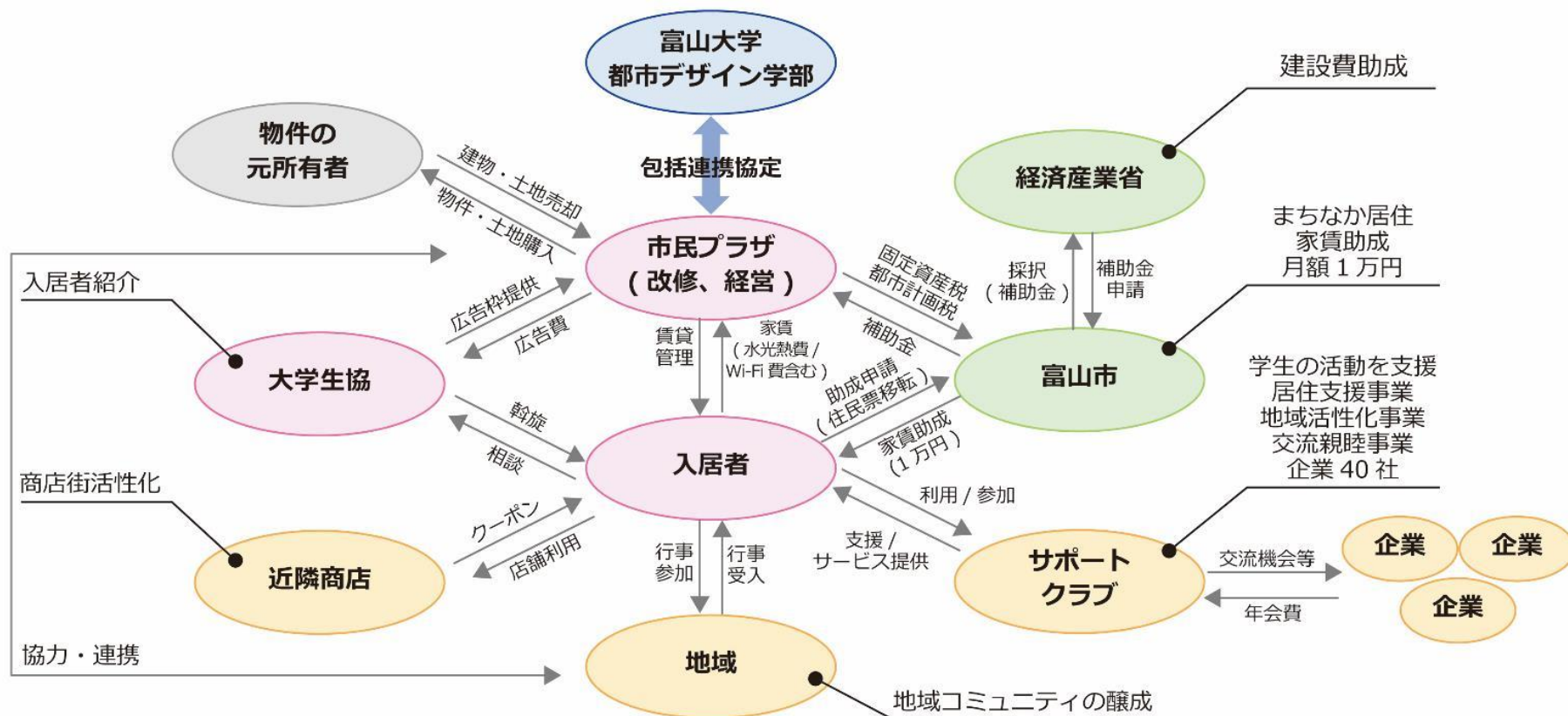
▼グランドレベル（食堂＋ランドリー＋お庭）

- ・近所にお住まいの方や働いている方、観光の方も自由に利用できる「食堂」＋「ランドリー」＋「お庭」



大学や地元企業等と連携した「街ぐるみ」のプロジェクト推進

～富山市民プラザと富山大学が連携し、学生の斡旋・入居からまちづくりまでをシームレスにつなげる事業スキーム～



市民プラザの役割

- ・学生シェアハウス等の一体整備
- ・多様な主体と連携した活動や交流機会を創出
- ・富山市民と連携した国庫補助申請

富山大学都市デザイン学部の役割

- ・学生へのシェアハウス入居の意義やまちなか居住の理解促進、入居斡旋、まちづくり活動への参画をシームレスに展開

まちなかでの暮らしや活動を後押しするサポートクラブを創設

～意欲ある学生の活動を支援し、富山愛のある次世代を育成することで、富山を活性化させる～

入居者



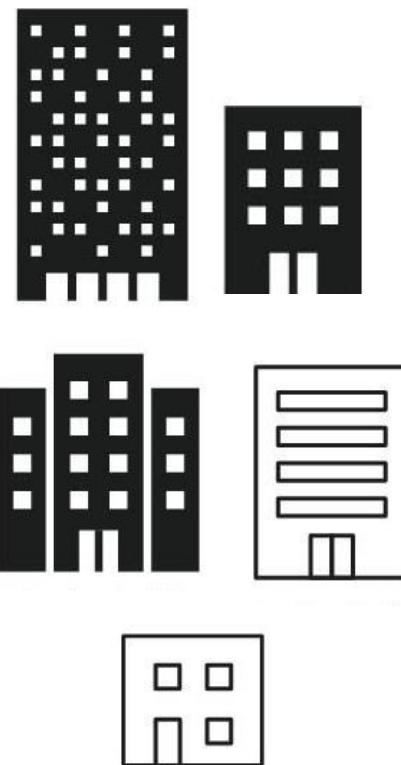
条件のいいアルバイト

1社10万円の
資金提供



社会経験になる
プロジェクト

地元企業約40社が加盟



- ・付帯サービスによるまちなか暮らしのサポート
- ・活動や交流機会に資金を活用



スポーツクラブが無料



まちの映画館が無料



市内軌道線学割定期の半額補助



シェアサイクル基本使用料無料

まちなかの活動に



「fil」を核に学生とまちがつながり、持続的にまちをアップデート

- ・ 4年サイクルで学生が入れ替わり定期的に新たなまちづくりが展開
- ・ 卒業生も定住人口や関係人口としての関与が期待

▼まちづくりに意欲ある学生の入居
サポート企業や地域との交流、情報交換



- 「富山まちなか暮らし」をサポート
- ・ 公共交通機関の学割定期券半額補助
 - ・ シェアサイクルの基本使用料無料 等

まちの新陳代謝を促す好循環を創出

▼学生のあったらいいなや挑戦を実現して学生のまちなかへの
愛着の醸成を図り、地域の賑わいにつなげる



▼サポートクラブ会員の中心市街地での事業を活用し
「富山まちなか暮らし」を体験



活動の内容(入居学生の実施イベント)

ffil

まちなか学生EXPO2024

- ・ ffil入居学生が主体となってまちなかで開催する文化祭。日頃の活動発表や、新たなチャレンジができる場にしたいという思いが込められている。(年1回開催 全2回)
- ・ 2024年はまちなかの賑わい交流広場「グランドプラザ」とその周辺の商店街通りの「空き店舗」を活用。ffil入居学生、ffil卒業生、富山大学のサークル・団体、富山短期大学の学生、サポートクラブ会員企業など全16店舗、参画学生数約80名となった。



▲イベント告知のフライヤー
ffil入居学生がデザイン



会場①:グランドプラザ
メイン会場。ステージ発表や
飲食から参加型、展示等様々。



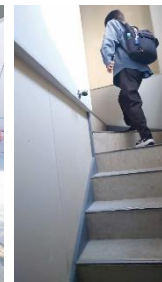
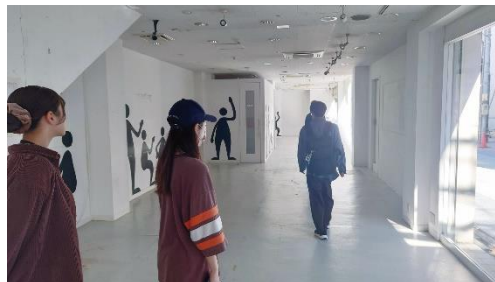
会場③:空き店舗
出店学生による写真展示



会場②:空き店舗
ffil入居学生による
「怠惰な学生展」

まちなか学生EXPO2024～空き店舗活用について～

- ・商店街通りの一体的な賑わいと将来的な空き店舗の活用を模索するため使用。
- ・会場を面的に活用することで、まちなかの賑わいを創出するとともに、学生と来場者のコミュニケーションの場となった。



◀ 出店候補
空き店舗の見学



▲当日の様子



▲事前準備、掃除



▲前日搬入作業



学生の感想

- ・EXPOに参加している学生の活動に刺激をもらった。まちなかで幅広い年代の方々が楽しんでいる様子が印象的だった。
- ・空き店舗で写真展示を行い、普段まちづくりを学んでいるだけでは分からないまちなかの現状を知る機会になった。

活動の内容(入居学生の実施イベント)

fil

マーケットイベント「fil× ???」

- ・filランドオープンに学生が企画実施。
- ・POP UPショップの出店交渉、学生によるフリーマーケット、焼き菓子販売、ラテアート体験等を実施。
- ・タイトルの「fil× ???」(フィルカケル) はfilと何かが合わさることで毎回楽しいことが生まれる楽しみを作りたい。という思いが込められている。
(年1回開催 全2回)



DJイベントFEEL in

filに同世代が集まってほしいとの思いから実施したDJパーティー。fil入居者も含めた学生有志によるDJプレイとfil入居者が飲食提供のホストを担当。



富山芸術文化学部、TADC学生会員との共同展覧会

本格入居開始前に、実施した空き部屋を活用した展覧会。



活動の内容(サポート企業と学生の活動)

共刊

企業のTOPと語る会「meet@fil」の定期開催

- ・サポートクラブ会員企業の経営陣などをゲストに招き、少人数でコミュニケーションを図る会。
- ・ゲストから仕事、まち、人生などについての経験や体験、考え方などをお話をいただき、フランクな雰囲気の中、双方向で会話を楽しむ。(全14回開催)
- ・食事はまちなかの飲食店からケータリングをする。



地元新聞朝刊への定期コラム掲載

地元新聞社共同企画による定期コラム。
まちなかのシェアハウスに住む学生のリアルな生活や感じたことを発信。
(全12回掲載)

定期コラムの掲載
北日本新聞朝刊
2024.10.30



地元ラジオへの定期出演

- ・地元ラジオの企画内で学生がパーソナリティを務め、番組を放送。(全10回放送)



活動の内容(サポート企業と学生の活動)

増刊

企業見学会×居室ベッド作り

- ・居室のベッドフレームの仕様規格を入居者と地元企業で検討。
- ・意見交換や使用素材ができる過程を学ぶ社会科見学、ベッドフレームを組み立てるワークショップを実施。



MOLKKY体験会



収穫体験



城址公園の賑わい創出プロジェクトの推進

- ・サポートクラブの会員企業が企画するプロジェクトへの参加



募集要項

- 1) 城址公園の賑わい創出メンバー
城址公園の賑わい創出メンバー募集。募集要項は、城址公園の賑わい創出メンバー募集要項をご覧ください。
(募集先) 城址公園、アクトシティ富山、富山県立富山高等学校
(募集人数) 20名以内
(募集時期) 2024年7月～2025年3月
(募集場所) 富山県立富山高等学校
(募集方法) 富山県立富山高等学校のホームページから募集要項をご覧ください。

- 2) 「KAYADO!フリー」で有給インターンシップ
富山県内の企業・団体・NPO・NGO等に有給インターンシップとして参加していただく方を募集しています。
(募集先) 富山県内の企業・団体・NPO・NGO等
(募集人数) 10名以内
(募集時期) 2024年7月～2025年3月
(募集場所) 富山県立富山高等学校
(募集方法) 富山県立富山高等学校のホームページから募集要項をご覧ください。



活動の内容(地域行事や会議等への参加、地域交流の実施)

越中大手市場 ～トランジットモール～に出店

- ・車両の交通を規制し、路面電車だけが通行し、歩行者天国にしてマーケットを開くイベント。(全5回参加)



西町秋の陣に参加

- ・地元商店街の宴にお手伝いとして参加。



県・市・商店街が主催会議に参加

- ・ 県が主催の富山県庁周辺県有地有効活用会議や富山市マスタープラン市民ワークショップなどへの参加や商店街組合へのヒアリング、商店街が主催する会議等に参加。(全15回)

<ギャラリーミレー利用促進会議>



- ・ まちなかの美術館から、若者の利用促進について相談があり会議を実施。会議後学生の意見を取入れてからインスタの運用を開始した。

<商店街組合へのヒアリング>



- ・ 商店街組合とのコミュニケーションを目的として富山市職員と商店街組合のヒアリングを実施。
- ・ 商店街組合から、お祭りへの参加のお誘いや、どういったお店があればまちにくる？などざっくばらんな意見交換が行われた。

<本町商盛会主催 地域マップ作り意見交換会>



- ・ 同会の地域マップ制作に際し、若者の意見が聞きたいと要望があり参加。

活動の内容(地域行事や会議等への参加、地域交流の実施)

fil

地元商店主等を講師としたワークショップ (まちなかキャンパス) の開催

- ・商店主や富山で活躍中の魅力的な大人を講師とし、生活や暮らしを豊かにする知識や技術などを学ぶ機会を提供。
これまでに魚の捌き方、浴衣の着付&まちなかトークを実施。



第1回目 まちなかキャンパス



第2回目 まちなかキャンパス



ご近所散歩とfil通信による地域の魅力発信

- ・fil通信は、入居学生の活動を発信する情報誌(年4回の発行)
- ・入居学生が商店主取材をする「ご近所散歩」を定期連載。
(fil通信: 全6回発行、ご近所散歩: 全2回掲載)



fil通信vol.5 取材写真

fil通信vol.6

空きビル等既存ストックの活用促進に向けた国土交通省住宅局との意見交換

【国土交通省住宅局との意見交換の主な内容】

filプロジェクトを進めるにあたり、ハード整備において発生した課題について国土交通省住宅局と意見交換を行った。

・設計図書の保管について

設計図書の保管が義務付けられていないため、買い手側のリスクとなる。

予想できない改修などが発生、もしくは調査に費用がかかる。

→設計図書保存の義務化などを提案

・用途変更の基準適合要件の緩和について

空き物件は用途変更前の基準に適した構造・仕様であることから変更後の用途基準への適合が容易ではない。

→新築や用途変更それぞれに対する適合基準の設定や補助制度について提案

・寄宿舍の採光規定について

都市部は建蔽率が高く、建築物と隣地境界線が近接している場合が多く、隣地境界線に近い窓は採光窓として認められないことが多い。

→採光基準の緩和や見直しを提案



▲隣地が別所有であったためビル1棟では十分な窓が設けられず計画が難航。隣地を購入することでクリア。



「学生にとって、社会との接点がつくられる場」

第1期卒業生：るいちゃん

大学院への入学をきっかけに他県から富山に来た私は、初めはほぼ知人がいなく、いわゆる社会との接点が少ない状況にありました。そんな時にfilに入居したことで、1人ではできなかったであろう様々な経験をさせていただくことができました。例えば、市場への出店やワークショップの企画などのまちづくり活動にも、filの枠組みがあったからこそ一歩踏み出す事が出来ましたし、それらを通じて地域で面白い活動をされている方々に沢山出会う事ができたので、自分の内面にも刺激や影響を受けました。

地域で関わる人の数が多いほど、その地域へ馴染む感覚が
つくられていくのではないかと考えていますが、filはまさに
それを後押しして、体現してくれる仕組みだと思います。

filを卒業して富山にそのまま就職しましたが、filを活用して、
仕事以外のコミュニティも作っていきたいと考えています。



▲卒業後、福井県庁職員×富山県・市役所職員等のプライベートな交流会&街歩き

卒業生・学生のコメント

fil



「自分の”やりたい”に挑戦」

第1期 入居者:トミー

大学を休学し自転車で日本一周の旅へ。途中エジプトに渡り、LUXOR FARMをサポートしたいというクラウドファンディングを立ち上げ、見事達成。

日本一周、世界一周に出るのは中学時代からの夢でした。filに入居する前から貯金は始めていて準備はしていましたが、いざ出発のことをリアルに考えると行動に移す不安もありました。

行動に移すことができたのは、面白い生き方をしている大人たちと出会えたこと。

filでの生活でそのような人たちとのコミュニケーションが増えたと思います。

また、filでは自分がやりたい！と思ったクラブイベントなど様々なサポートを受けてできましたし、シェアメイトとご飯を食べながら、メンバーの興味のあることや挑戦していることを聞いて刺激を受けました。こういった経験が、自分の行動を後押ししてくれたと思っています。



今週の富大生

Weekly
TOMIDAISEI

第30号

経済学部 経済学科
社会データサイエンスコース
2年
長野県大町岳陽高等学校
(長野県)

まちなかシェアハウスの学生と家族のように

選択に影響を与えた山村留学の経験

中学までは家族で東京に住んでいました。幼い頃からキャンプが好きだったこと、小学生で海外に短期ホームステイにいった経験もあり、親元を離れることに抵抗はありませんでした。小学校から、6年生の時に山村留学をし、長野県の泰阜町で過ごしました。五右衛門風呂を沸かし、みんなでご飯を作り、すべてが自主性に委ねられる生活でした。自然と融れ合うことも、共同生活を楽しかったです。山村留学の経験に加え、両親も田舎暮らしを考えていたことで、高校進学と同時に、家族で長野へ移住しました。

進路選択時の父からの助言

父からは幼少期から「大学は国公立のほうが良い」と言われていました。それは、私立大学出身の父が私立大学と国公立大学では教員と学生の比率が全然違うことを知っていたからでした。国公立大学のほうが学生一人ひとりに目が行き届くといわれ、きちんと学べる環境を望んで国公立大学を目指して受験勉強しました。

受験時にシェアハウスに興味

富山大学受験時に、「fil」(まちなか学生シェアハウス)のことを知りました。山村留学の経験から共同生活の楽しさを知っていましたし、富山のまちなかに近いことや、filの学生がまちなかイベントに参加していることも楽しそうと思いました。合格後にfilへの入居を決めました。

filでの生活

私が生活しているフロアには6人の女子学生が住んでいて、共有スペースでくつろいでいるときによく会話しします。filではまちなかイベントにも参加する機会が多いので、企画の話し合いなどまじめな話をすることもありますが、色々な会話や経験を共有するからこそ、何でも話せて心地の良い家族のような関係性です。

まちなかイベントの参加

filでは居住条件に「まちなかイベントへの参加」があります。学生主体の活動が主に①まちなか学生エキスポ(filがある松曲輪地区で、学生が主体となって企画するイベント)②fil meet (filの学生と富山県の企業と交流する会)の二つあり、その他にも県の管理会社の富山市民プラザから市やほかの団体のイベント案内ももらいます。参加することで知り合う人々とのつながりも楽しいです。

「まちなか学生エキスポ2024」では、全体の統括の役割を担いました。出店者を集め、ステージ企画や学生スタッフの配置決めを行うなどの経験をしました。普段からまちなかイベントに関わり、顔見知りの学生に出店を依頼することができたり、色々なイベント参加で得た、人とのつながりが、役に立ちました。



お世話になった高校の先生へ

本格的に勉強を始めるのが遅かった私に、根気強く教えていただきありがとうございました。おかげで今、とても充実した大学生活を送っています。

まちなか学生シェアハウス fil
<https://fil-toyama.com/>



取材日：2025年1月7日

Vol.
30

○富山大学入試課で運営する受験生応援サイト「CORARE」に掲載予定。2023年4月入居 filでの暮らしを通じて多様な人と関わるのが楽しいとコメント。

学生シェアハウス入居者数・活動交流機会・県外学生の県内就職

入居者数（最大32名）



2022年度

5名

（入居開始12月）

2023年度

17名

2024年4月

31名

活動交流機会



2022年度

10件

（活動期間4カ月）

2023年度

23件

（活動期間12カ月）

2024年度

24件

（活動期間9カ月）

県外学生の県内就職



2022年度

-

（対象者なし）

2023年度

-

（対象者なし）

2024年4月

1名

（対象者1名）

活動や取組の継続と新たな学生シェアハウスの検討

filで過ごす学生生活や、まちなかでの活動は…

学生にとって刺激的で印象深く、将来的な富山の定住人口や関係人口となり、富山のまちに関わり続けることが期待



引き続き、「fil」を核に
学生・地域・地元企業と繋がる活動や卒業生とつながり続ける取組を推進



新たに2棟目、3棟目の学生シェアハウスの検討を開始

(物件購入やリースなど、様々な選択肢や可能性を視野に検討！)

目指せ学生400人まちなか居住！